

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 佐々木 和之さん（奥州市）

取材担当 奥州農業改良普及センター 菅原 豊司

令和３年に就農した佐々木和之さんの住む地区は、小区画の水田がほとんどで担い手が少ない地域です。

仙台で生まれ育った佐々木さんですが、子どもの頃から奥州市で祖父母の農作業の手伝いをする中で農業を身近に感じ、父の帰郷の際に、それまで勤めた仕事をやめ、祖父母の農地と周辺地域の農作業受託で就農することとしました。

所有していた農地はわずかしがなく、農業で自立していけるだけの農地が集積できるか、そのために必要な機械をどの程度確保すればよいか不明であったことから、中古機械等で最低限の装備から始めることとし、休耕田の復田に必要なあぜぬり機、播種機、催芽機をスタートアップ事業で導入し整備しました。

当初は2haに満たない面積でしたが、佐々木さんの休耕田を復田しての丁寧な米作りに加え、水路や農道の整備、カメムシの共同防除作業などに関わるなかで信頼されるようになり、５年目の今年は8.3haの面積を任されるまでになりました。また、導入した播種機でも対応可能な密苗に挑戦し、苗箱数を半減するなど省力化も実現しています。

担い手確保が厳しい中山間の小区画水田地帯において、地域の水稲作を支える担い手として、今後一層の活躍が期待されます。



中山間地での米づくりを
話す佐々木和之さん



休耕田復田に活躍のあぜぬり機